

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	利用者個々の心身状況や要望に質的にも差異があり、集団的な行動をするときの個々への対応は必ずしもできない
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	利用者本人にも日々の心身変化があり、必ずしも定期的なことをすることは難しい 利用者個々への公平な係り方も重要であり、十分なる配慮をする必要がある
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	イベント的なことには利用者にも心身の負担がかかるので、計画には十分な配慮が必要です 来られる人だけでも茶飲み相手に来ていただけるようにしたい
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		ホーム周辺を通りすぎる人も其々の目的を持っているので、なかなか立ち寄り処まではいかない
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		職員が地元地区に居住しているものが半数近くいるので、自治会活動には通常は参加している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地元地区である高齢者集会には時々参加しているが、機会も少ないので充分とはいえない	○	極力、機会を見つけては参加するように心掛けている
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	利用者及びその家族の声に真摯に耳を傾ける良い機会なので、その意義を活かすことに努めている できる範囲のことは実践に向けて取り組む		評価結果を内部会議の時に課題に挙げて、それへの取り組み方法や必要性の内容的検討をしている
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前述のように、評価結果については運営推進会議にも報告し、参加者からも参考意見や視点についての指摘及びアドバイスを得るようにしている		運営推進会議参加者からの意見は少ないが、職員が気がつかないでいる視点での見方もあるので真摯に受止め実践の機会を考える
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の申請等必要に応じて代行もしているので、市の支所担当課や包括支援センターに立ち寄ることは多いので互いの情報交換に努めている		限られた範囲のことではあるが、事後処理にならないように早めに多くの機会をつくっている
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護の講和や講習には欠かさず参加して喫緊の課題に対する理解を得るようにしている		生活保護法の認定機関にもなっているので、それらを踏まえた役割や公平性には配慮している
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実例的にはほとんど皆無だが、充分に気をつけていないと何らかの 欠如も出るので講習会等の機会があるときは参加している		身体的なことは本人の危険排除の為である場合もあるので家族に説明をして同意を得ている 日常的なところで、声掛けや会話の中で雑な対応が出てしまうが 職員互いに注意の呼びかけをしている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に関する説明時には、重要事項説明書や運営規定に基づくこと等は理解を得ていると思う 質問にも充分に答えている		説明について不理解の点が生じれば、いつでも説明し相談に応じている
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望・意見等をいつでも出せるように家族にも説明し、玄関入り口に 気兼ねなく自由に記入できる意見・要望箱を設置している ケアプラン作成時期には家族からの要望等アンケートも欠かさず得ている		家族等も含め日常的な会話の中でも要望等を聞くように心掛けている
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	体調の変化等があれば必ず家族への説明や方針等の同意は電話で早急に連絡をしている		ケアプラン作成時には、利用者のスナップ写真や近況についての報告もしている
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に関しては行政等の窓口紹介説明をしてあり、意見要望等は ケア会議等で職員共通情報としている		職員会議で説明検討し、早急に取組み解決に努めている
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議において、職員其々が自由に発言提案して検討している		認知症についての専門的なことについては、研修の機会を多くもちたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常勤者が多いので前月において、希望休暇日申告制としているので変形勤務制への対応はできている		職員の体調不良による急な欠勤・早退遅刻にも他の職員対応で間に合っている
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤者で完全退職者は7年間で3人のみであり、内1人は定年退職後非常勤勤務をしていた		利用者が落ち着いた日常を送る為には、確かに職員異動が多くては良くないと思う 職員にとっても、仕事をしやすい場で無ければと思う

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新採用から3ヶ月経過までには基礎研修を受け、その後は各種講習参加し一定期間をもって資格試験への機会を得るように進めている		小規模な変形勤務制なので、長期間を要する研修等はなかなか難しい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会等の研修・会議は職員交代で参加し、情報交換・交流のために活かしている	○	機会が少ないが心掛けていきたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	変形勤務制なので、前月休暇希望申告制を柱としている夜勤の場合は、2日勤務扱いとして勤務体制をとっている		職員相互の連携に心掛け、互いに相談協力をもつようになっている
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	利用者の状況把握を共有し、利用者に対する職員互いの係りあい方を互いに理解する		公的制度における介護業務なので、待遇処遇には限界があるが、独自な方法等も考えて改善に努めている
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者が日に何度となく繰り返すことがあるのは当然であり、それにも耳を傾けて理解できるように促し、時として事実についても話しかけるようにしている		利用者個々が其々違うのは当然であり、その違いを見極めて個々に対する接し方、話掛けをするように努めている
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の為とはいえ、家族対応が不可能なことも多々あるので率直な情報交換をするようにして、支援対応している		事前情報として得られない場合も多々あるが、現状についての事実を家族と共有するように努めている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームとしての機能役割を説明し、それに基づく利用を進めている 相談内容によっては、他の機関を薦める		家族の喫緊な状況は理解できるが、対応不可能なこともあるので速やかに他の手段を取れるように相談に努めている
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が入居しての当面期間は、生活環境の変化等で戸惑いはあるのは当然であるので、環境変化の緩和期間的な解釈をして緩やかに共同生活に馴染むようにしている		共同生活に馴染むことが困難な状況と見受けられるときは、家族との連絡相談をもって何らかの改善策を取るよう努めている
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の談笑の中で、利用者が思い思いの自分史について話すことにその人生経験に驚いたり、経験談については記憶力があるのには しばしば感心することがある	○	つつい日常での介護業務になってしまうこともあり、家族として共に生活することを心掛けるべき
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	事あるごとに家族との電話連絡を取り、できる限り来所して直接利用者と接する機会をつくるようにしている		現在での利用者家族は、家族第一介護者が県外在住5人という状況もあるので難しさがある
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	遠方の家族もいるが、来所の際にはホームでの生活を踏まえ、たうえで家族としての関係を保てるように支援している		認知症の進行が見える場合は家族と連絡を取り、専門医の診察を受けるようにしている 進行そのものを止められるわけではない
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近親者の法事や慶弔事には、家族と共にできる限り参列できるように薦めている		家族対応が重要であり、又プライバシーへの配慮も充分にしなければならない
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者個々にも個性好みがあるので、対人に関しても十分な配慮をしてトラブル発生を未然に無いうようにしている		利用者個人の性格的なものもあり、言い聞かせるだけで必ずしも 万全とは言えず、注意深く見守りも必要

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入居時の契約では、契約期間を定めていない		他の施設を紹介(より本人に好ましい場合)したときには、その後の様子も伺ったりする
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の個室にて面談をし、現状の思いや希望を聞く 又、家族の方が来所して際に話を伺い意向の把握に努めている		普段の何気ない会話やしぐさから、個人の居間までの暮らし方や思いを把握するようにしている 又、言葉の伝達が出来ない方に対しても表情や態度から把握するようにしている
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所されて直ぐに面談し、本人及びキーパーソンである家族から話を聞きこれまでの生活環境や暮らし方の経過について把握する		面談事項をアセスメント表に記録し、情報を職員全員で共有するように努めている
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日定時にバイタルチェックを行うと共に、顔色や表情の変化について総合的に把握するように努めている		一人ひとりの身体状態は常に変化しているので、小さな変化も見逃さないように、利用者を総合的に把握できるように日ごろから観察力を身につける
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一度ケアカンファレンスを行い、利用者の課題とケアの実態について話し合い意見交換し、それらを元に介護計画を作成する	○	介護職員と介護支援専門員の会議になることが多いが、家族には電話して本人の状況を説明し意見を伺うようにしている 又、現状では本人が意見を述べることは難しいと思われる
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の期間に応じた見直しを行っている 又、変化が生じた時には、その都度職員と話し合いを持ち、家族には電話にて意見を聞くように努め、現状に即した計画の作成をしている		変化することは常であると予測されるので、できる限り早い計画修正が出来るよう努めたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特に要注意の情報や予防に努めなければならない情報は、個別記録にて詳しく記入している 勤務交代の時間帯に高等で申し送りをして情報の共有に努め計画の見直しに活かしている	○	職員によって記録方法が違うので、職員が共通した記録を出来るように勉強をしたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の中には独居生活で、家族が遠方に居住している場合もあるので疾病入院時には家族が即対応できないので、家族に代わって 入院手続きや看病を出来る限りしている		通院・入院に際しては職員が支援することが多い 又、行政関係手続き等も家族の依頼により代行することも多い
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議には民生委員・ボランティアの方に出席していただき ボランティアの受入れ、随時消防機関の立寄り等がある 学校行事への見学参加や、文化祭の招待等もある		地域内での学校等の行事には、期待して行事予定を待っている 但し、天候の影響を受けることもある
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設からも行事等の案内があり、その機会を有効に活かしている		猛暑・寒冷期の季節的問題もあるので慎重に検討する場合もある
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には包括支援センター職員にも毎回参加していただきホーム現況については常々理解していただくようにしている		生活保護法認定機関にもなっているので、権利擁護への認識は 常にもって公平性を欠かないように努めている
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2人の内科医に、隔週で往診をお願いして健康管理に努めている		専門病院や総合病院の診察を要するときは、2人の内科医から 速やかに紹介状を出していただける

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症状が変化したり、異常が見受けられる場合は家族と相談して脳外科医等での受診を出来るように支援している	○	近隣には認知症専門医がないので、認知症の専門的診察を受けることは困難があるが、家族との相談で実施に努めたい
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤職員で看護師資格があり、病院勤務も経験しているので日常の支援はしている		ケアプランにも反映できるように非常勤ではあるが、日常的に看護師としての観察もしている
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	持病の悪化等で入院を余儀なくされることがあるが、診察計画や入院計画についても担当医との相談をしている		病院・担当医によっては、検査が異常に多く利用者本人にとって 検査医療の心身負担が大きいと感じるときがある 病院での生活は単調なのか心身共に衰えが激しい時もあるので 担当医と詰めた話し合いを要する
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族との話し合いや要望により終末期介護もあり、かかりつけ医と 充分なる打ち合わせ依頼をして利用者の状況については職員一同で状況把握に努めている		医療連携体制はとっていないのは、利用者の負担も考えたことである 当初より、かかりつけ医の定期的往診を受けている
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記の通り、家族・かかりつけ医・職員で状況把握には努めている		かかりつけ医の指導の下、ホーム内で出来る用具準備等の支援に心掛けている
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	一定期間をもって、徐々に住み替えについての利用者本人の心づもりができるように支援している 家族とも利用者本人に何が必要か・どのような対応ケアが必要かについても説明をしている		利用者本人の生活環境変化については、大変心配であるが情報交換を有効に活かして欲しい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○	毎日のケアの中では、時としては言葉露わなこともあるので職員相互で注意を喚起し合っている
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		日々同様なことを繰り返すことも多いが、徐々に理解できるように 繰り返し対応することに努めている
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	共有スペースでは、時として利用者同士でも意識のすれ違いが生じるのでその場合は個室で個々に対応すること等で対処する
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		出張でホーム内においてヘアカットをしている それ以外に特に本人希望はない
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている		本人の状況に合わせて、刻み食やバランスを考えた食事をするようにしている
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		現在では、タバコ・酒類希望者はいません おやつ等については、何を食べたいか要望を聞くように努めている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の羞恥心もあることを念頭にして排泄の支援をしている		現在、高崎市では紙おむつの支給があるので家族との相談の上 支給を受けている人が多く、以前は抗菌パンツとパットで過ごすことを進めていたが検討していきたい
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的には男女で別の日としている 見守りでよい人には見守りでくつろぐ様にしている		利用者同士の相性があるので、日替えて公平になることも含めて 入浴の機会としている 入浴を拒否するときもあるので、別の日に変えることもある
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間就寝と昼寝をうまく摂れるように配慮し、寝つきが悪ければ本人の自然体も考えるように努めている		心身の体調不全のときは、かかりつけ医に相談して誘眠剤を処方していただき支援をしている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者同士でも相互の理解のうで行動するときもあり、そのときは 見守りで本人の意思尊重に努めている		ドライブや季節ごとの散歩で気晴らしも考慮している
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には貴重品所持者はいませんが、本人の要望があれば職員が把握した上で金銭所持者もいます	○	歩行困難者が9人のうち6人いるので、日常的に金銭利用はありませんが検討をしていきたい
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に外出やドライブ、散歩機会を定期的に持ち、日常的にはホーム周辺の散歩は本人の希望も聞きながらしている		利用者の特に脚力の低下には配慮しているが充分とまではいかないので検討も要する 雨天時には室内で歩行補助機も利用する
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族からの要望には応えて支援している	○	本人の希望で可能なことは対応するようにしている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望や必要性があるときには、欠かせない方法手段である		手紙のを出すことは、はっきりした本人の意志を確認した上でする郵便投函でなくとも家族に渡したいときは預かっておいて渡すようにしたい 気晴らしで家族等に電話をしたいときもあるので支援している
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居時に家族から交友関係についても説明を受けているので、その 要望に従い対応支援している		複雑な人間関係がある場合もあるので、その場合は細心の注意を払って支援している
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は皆無だが、怪我をしている場合や安全性確保の場合は 家族との打ち合わせ同意の上最低限の危険性排除で対応している	○	身体拘束は危険性排除もあるが、声掛けにおいては急な対応を 要する場合荒立った言葉になるので注意をしたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には、日常的な生活時間では鍵を掛けることはないが窓鍵は夜間の開け放しによる健康被害に及ぶことを回避するために二重鍵 鍵を使う必要性もある	○	徘徊癖の症状が出て、職員の目が手薄になる時間帯もあるので その場合の必要性として鍵を掛ける場合はあるので方法について検討していきたい
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	直接ケアに当たっていないときでも、見守りの目は離さないようにしている		夜間においては、夜勤者は利用者の所在には常に気をつけ、定期的に部屋の見回りも欠かさない
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個室では利用者個々の状態に合わせて必要物品を配し、其々の 生活空間を作るようにしている		季節ものは個室内でも入れ替え整理でき、必要以上のものは物置等で預かり保管している
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	現在では喫煙者がいないので、利用者本人が出火物を所持していることはない 薬は預かり保管し、その都度職員による服薬支援をしているので個々の薬管理保管にはかかりつけ医の投薬指示で徹底している	○	徘徊行方不明を防ぐ為の随時鍵を掛ける場合がある

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者個々の持病・体調不良を職員共有で把握し、かかりつけ医への緊急連絡相談、場合によっては救急車要請についても初期対応として位置づけている		緊急事発生には得心の注意を要するので、慎重さと速やかさを求められるので特に細心の注意を払っていきたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年定期的に避難訓練を実施している 消防署職員の指示により 的確な方法を訓練している	○	緊急事発生には常に不安があるもので、これで万全ということは ないので心掛けが大事である ホームの近隣に居住している職員が半数いるので、職員対応は勿論のこと近隣の強力も得られる
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	かかりつけ医の診断や精密検査の結果による状態については、家族にも充分説明している		利用者への負担も配慮して適宜な方法での支援に努めている
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックは毎日のケア業務としている その記録に基づき かかりつけ医とも連絡相談により利用者個々の状況を共有している	○	利用者個々により状況は違うので細心の注意を払っていきたい
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医の処方箋指示を服薬目的と合わせて理解し、服薬の支援をすると共に症状の変化にも注意を払っている		利用者個々と服薬時間別に速やかに整理準備をして、万が一にも取り違えのないように細心の注意を払っている
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事内容にも注意を払い、適度な散歩等運動もしている 場合によっては、かかりつけ医の処方箋で服薬対応もしている		排泄記録で状態を把握しながら、支援に努めている
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夜間の入れ歯保管管理は勿論のこと、食後の歯磨きや口腔衛生についても支援に努めている		歯科医の往診依頼も出来るようになっているが、利用する機会ほとんどない

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスも充分配慮し、水分についても終日の中で注意を払っている	○	季節によっては、水分摂取が重要なことでもあるので特に注意をしているが、排尿との関連や本人の嗜好もあるので支援が難しい人もいるので努力を要する
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	年に数回定期的に感染症についての職員内部で研修をして、特に注意を払っている	○	外部からの出入りもあり、又予期しない事態もあり得るので細心の注意をしていきたい
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	保存食品以外は買いだめをせず、新鮮な食材提供に努めている 調理用具は定期的に毎日消毒で衛生管理をしている		食材の買出しはこまめにして、新鮮食材を自家栽培も含めて提供している
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	いつでも自由に出入りできるようにしている		玄関スペースが狭いことはあるが、自由に出入りできる
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、ゆとりを感じるように心掛けている	○	充分とはいえないが、居心地には気をつけている
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファコーナーと日向ぼっこをするコーナーとで利用者が思い思いに過ごせるようにしている		一人になりたいような状況の時には、本人の個室で過ごすように支援している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には本人が要望するものは持参いただくようにしている		利用者本人の要望するものは家族に相談している
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温管理は季節ごとに配慮し空調管理をしている 換気は毎日定期的の実施している	○	田園もあるので、外部からの異臭もあるが利用者はそれほど苦に していない様子 時として内部でも異臭発生することもあり、緊急対応する
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的な状況ではあるが、自立支援に努めている		ベッド等も利用者個々に合わせられるよう数パターンの方 法を取っている
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立支援を目途とし、混乱時には落ち着いた状況に戻れる ように 支援している	○	利用者本人のやる気を引き出すのは容易ではないこともあ る
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	同行して散歩をしたり、日向ぼっこが自由に出来るようにして いる		季節によって、利用方法も変わるので注意・配慮を要する

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ゆとりを感じる日常性を重要視している。

但し、利用者の認知症状により必ずしも平穏を損なう場合もあるので注意している。

認知症状の軽い利用者にとっては落ち着いた生活が重要であるので趣味等も時々入れて過重にならないようにしている。